

航空安全、地域発展祈る

旧海軍航空隊三沢基地ゆかり

志乃武神社に鳥居奉納



鳥居のしゅん工奉告祭に臨む関係者。左奥は志乃武神社の社殿

おいらせ

旧海軍航空隊三沢基地ゆかりの志乃武神社（おいら

せ町上久保）に鳥居が奉納されて21日、しゅん工奉告祭が行われた。152人の寄付金により地元業者が青

森ヒバを使って制作。関係者は戦没者・殉職者を慰霊するとともに、基地の航空安全や地域発展を祈った。

志乃武神社は国家鎮護、航空安全、海上安全の守護神として1943年11月、

基地内に建てられた。ご神体は敗戦後の45年9月、氣比神社（おいらせ町）に移され、同神社の社殿内にまつられていたが2000年6月、同神社境内に新たに建てられた志乃武神社社殿に納められた。毎年9月、参拝行事が行われている。

志乃武神社を守る会（月館八郎会長）が17年6月、

鳥居建設に向けた寄付協力への呼び掛けを開始。旧海軍OBらの親交団体「三沢海友会」、空自退職者団体「三沢つばさ会」、空自三沢基地OB会、基地隊員などが賛同した。

奉告祭は新型コロナウイルス対策のため9人のみに参加。守る会事務局の種市嗣彦さん（65）や基地OB会の吉家裕行会長（71）ら関係者が玉串をささげた。守る会副会長の倉持昂郎・三沢つばさ会会長（68）は「感激の極み。先人の思いを継承し、関係者で守っていきたい」と話した。（岡田圭逸）